属人区長の書簡 (2018年6月8日)

2018/06/09

日本語PDF ---- English PDF ---Español PDF

愛する皆さんへ。イエスが私の子ど もたちを守ってくださいますよう に。

[Ite et vos in vineam meam, あな たたちも私のぶどう園に行きなさ い」。ぶどう園の労働者のたとえ (マタイ20,4参照) の中で語られた イエスのこの言葉を、創立者のパド レは、『聖ラファエル職についての 指針』の前書きとして記されまし た。主が創立者に託され、今は創立 者の子どもである私たち一人ひとり の手の中に託されているぶどう園で 働くために、私たちは送られている のですから、イエスのその言葉は私 たちにも向けられていることを認め ましょう。

この使徒職の直接の目的として、出来る限り多くの若者たちに形成を与えることを私たちは望んでいます。 それは、若者たちが自由と責任感をもって個人的にオプス・デイの精神に与り、今、そして、生涯にわたって、家庭や職業において、また、の世界の中で、人間の広大な生活のあらゆる分野において、キリスト教 的パン種となるためなのです。また、この使徒職のもう一つの帰結として、主はお望みの人々(マルコ3,13参照)をオプス・デイに所属するようお呼びになることでしょう。

また、聖ラファエル職に参加する若者たち自身の使徒職活動によって、全教会との一致のうちに、「イエスに出会う人々の心と生活全体を満たす」「福音の喜びの種まき人となることを私たちは望んでいます。

人々、など、すべての人々に向けられているべきです。いつも誠実な親しさをもって生活を共にし、愛を込めて福音の真理を追究し広めながら、veritatem facientes in caritate、愛に根ざして真理を行いましょう(エフェソ4,15) $\frac{2}{}$ 。

聖ラファエルの若者たちは、属人区の信者ではないので、オプス・はないので、オプス・はいとの正式な絆を持っていと躍動した。 え、オプス・デイの精神と躍動したではない。 使徒職に参加しているの形成の手段がって、彼らは、霊的な形成の手段ではるだけではなくであるだけではなった。 でガス・デイを自分のものとして感じ、その使徒職の使命に活発に協力すべく努力しているのです。

この使徒職の伝統的な手段である サークル、黙想会、カテケージスな どを準備するために時間をかけて しっかり考えましょう。そして、そ れらの活動が聖ホセマリアの心の中 に生まれた時の、人間的かつ超自然 的な品位、肯定的な精神をもって、 そして、神と人々への愛を込めて実 行に移しましょう。とは言いつつ、 使徒職の実りは何よりも神の恩恵に かかっていることを忘れてはなりま せん。

皆さんもよく知っているように、これらの活動は、友情と深くかかわっています。「創立者は、これらの仕事は常に祈りと犠牲、そして友情と親しい語り合いの個人的なつきあいを前提とし、それに伴われ、それと共に続けなければならないと教えました」3。

友情には人間的に豊かな価値があります。イエスご自身、友情を神的次元に高めて語られました。「わたしはあなたがたを友と呼ぶ

(ヨハネ15,15)、「友のために自分 の命を捨てること、これ以上に大き な愛はない (ヨハネ15,13)。そして、ご自身をまったく差し出されたのです。私たちもイエスの御跡に従って、人々のためにいのちを捧げましょう。使徒職は友情の最高の表われです。友情を道具にするのではなく、その充満へと至らせるのです。

真の、そして、真摯で誠実な友情を生きる⁴ためには、自分自身から出ることが必要です。それは、個人さいに、寛大に時間を注にいてで、寛大に時間を注によって、寛大にはないで、真の関心と相互の愛情によって、南では、北のです。この友情による個人に共れてのです。ないです。ないです。ないです。ないです。ないです。ないです。ないです。

また、それぞれの場所や時代の必要性に応じた、実に多様な補助的活動を組織することができます。それらの活動によって、すべての人の自由

を尊重し擁護しつつ、多くの若者たちの人間的、あるいは、文化的な形成などを向上させることができ、また、彼らを信仰へ近づけ、キリスト者としての彼らの形成と生活を成長させることにもつながるでしょう。

困難が大きく思える時は 一時にはそ うであるとしても一、オプス・デイ の最初の頃に目を向けましょう。そ の頃の困難はとても大きなものでし た。後年、創立者のパドレは、次の ように回顧されています。「これら すべてを前にして、わずかなものし か手元にはなかった。人間的手段は 全くないかわりに、若さ、経験不 足、無邪気さはたっぷりと持ってい た。しかし、すべてを所有していた のだ。それは、祈り、神の恩恵、朗 らかさ、仕事。これらは常にオプ ス・デイの武器であったし、これか らもそうである | ⁵。

主に光を願いましょう。この使徒職において、もことは何かを一人に出来ることと人できることは何かを一人にあります。ことが見ることができまり、犠牲、手段になった仕事という超自然の年齢がしょう。それぞれののはもの状況に応じて、若者とのももができるかを、とができるかを、となったさい。

愛情を込めて祝福を送ります。

あなたがたのパドレ

フェルナンド

ローマ、2018年6月8日

イエスの至聖なる聖心の祭日

- 1 教皇フランシスコ、使徒的勧告 『福音の喜び』、2013年11月24日、 1番。
- 2 『指針』、1941年12月8日、3 番。
- 3 ハビエル・エチェバリーア、 2002年11月28日の手紙、13番。
- 4 『知識の香』、149番参照。
- 5 1950年10月7日の手紙、12番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/zokunjinkuchou-tegami-2018-6/(2025/12/13)